

自己評価報告書

平成23年5月15日現在

機関番号：82647

研究種目：若手（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20730124

研究課題名（和文） 日本の OECD 加盟に関する研究——国際関係史的観点から

研究課題名（英文） Japan's Joining the OECD: From the Viewpoint of International History

研究代表者

鈴木 宏尚（SUZUKI HIRONAO）

一般財団法人 平和・安全保障研究所・客員研究員

研究者番号：80415926

研究分野：国際関係論

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：国際関係論、国際関係史、日本外交史

1. 研究計画の概要

本研究は時期的には、米国が欧州経済協力機構（OEEC）を経済協力開発機構（OECD）として改組する構想を持ち始めた 1950 年代末から日本が正式に OECD に招請された 1963 年 7 月ごろまでを対象として、米国、英国、カナダ、日本そして OECD の外交史料等を広く蒐集・分析することにより、日本の OECD 加盟を国際関係史的観点から問い直そうとするものである。そしてそれによって、当該時期に政権を担っていた池田勇人内閣の対外政策及び戦後日本外交の新しいイメージを提示することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 資料調査

平成20年度～23年度にかけて海外調査を行い、米国の国立公文書館、英国の国立公文書館、カナダの国立図書館・公文書館、欧州連合歴史資料館において、日本の OECD 加盟に関する外交史料を蒐集した。

各国の公文書館では、①日本と各国の間で日本の OECD 加盟がどのように話し合われたか、②各国間例えば米英、英仏、米（西）独間の首脳会談等で日本の OECD 加盟についてどのような意見交換がなされたか、③ OECD の理事会や開発援助委員会（DAC）において日本の活動や加盟希望はどのように議論されたか、④OEEC から OECD の再編において日本の DAC 参加について OEEC 及び OECD 内でどのような議論がなされたか、等を明らかにすべく、資料調査を行った。

また日本国内においても外務省資料、当時の官僚の回想録等を蒐集した。

(2) 成果等

蒐集した資料の分析によって、①米国政権

内ではケネディ大統領自身が日本の OECD 加盟について積極的であったこと、②日本が将来の OECD 加盟を見通して DAC をはじめとした OECD における開発援助分野の活動に熱心に取り組んでいたこと、③日本は OECD に加盟する前に DAC に参加していたことによって、OECD 内で微妙な立場に置かれていたこと、④日本の OECD 加盟を英仏西独等が支持するようになった背景としては米国からの要請があったにしろ、それほど影響は強くなかったこと、等が明らかになってきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

おおむね予定していた通り資料の収集・分析を進め、その成果の一部を学会等で二度報告することができた。

4. 今後の研究の推進方策

蒐集した資料の分析をさらに進め、研究の最終的なとりまとめとして「日本の OECD 加盟をめぐる国際関係史」と題する論文を執筆する。分量・質ともに学術書として公刊できるレベルを目指す。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 2 件）

①鈴木宏尚「パックス・アメリカーナと池田政権期の日本外交——日米欧経済関係の

文脈]、2009 年度日本国際政治学会研究大会部会、2009 年 11 月 7 日、於神戸国際会議場

②鈴木宏尚「池田政権の対欧州外交——『経済外交』と『冷戦』の交錯」日本政治学会戦前戦後・比較政治史研究フォーラム 2010 年度春季研究会、2010 年 6 月 12 日、於東京大学

[図書] (計 0 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]